

k o k y o s o t s u s h i n

高教組通信 No.62012年11月9日
兵庫高教組書記局URL : <http://www.hyogo-kokyoso.com> E-mail : honbu@hyogo-kokyoso.com

本当に学区拡大してよいか(4) 株立高校か 地域に根ざした高校か 株立 = 株式会社立

中教審の高等学校部会では将来の高校像について活発な議論が行われていることを前回紹介しました。文科省や県教委が進める特色化は以下に見るように最終的には高校の民営化に行き着くこととなります。私たちは民営化などではなく地域に根ざした高校こそ高校教育の発展の基本方向であると考えています。

中教審部会で暴露された株立高校の実態

中教審 第8回部会で金子委員が次のように株式会社立の通信制高校の実態を暴露しました。

金子委員：私、構造改革特区の教育の評価委員会の委員をやらされていて、見ているんですが、株式会社立の高校が今ありまして、これは実態を見るとかなり問題がというか、ひどい場合があった、例えば教員16人で生徒が2,000人いるとか、「これ、どうやって面倒を見ているんですか」と聞いたら、「職員がいっぱいいますから」と、「職員が40人くらいいますから」とか言うんですが、要するに、職員が指導しているということでしょうが、これはやっぱり高校教育の概念から離れているんですね。... 今申し上げたような状況を放置しておいて、これで高校ですと言えるかどうかというのは、これは非常に制度上に大きな遺漏があるのではないかと思うんです。

部会では株立高校の問題は何度も取り上げられ問題点が指摘されます。「特区」での「実験」が終了すれば全国的に広がって行くと思われま。いずれは、普通科高校も含め、様々な形態をとりながらも民営化が推進されていくことは間違いありません。学区拡大とセットで進められている高校特色化の危険な狙いを「株立」に見ることができます。

文科省・県教委が描く貧困な高校生像

今回文科省から(県教委も同様ですが)きわめて率直に彼らが描く「高校生像」が示されています。進路別に描いてはいますが高校生を「人材」としか見ていないことがよくわかります。人間的な成長や人格の完成などの視点から教育内容が考えられていないことは一目瞭然です。この貧困な高校生像に基づき教育政策を立案する限り高校生に必要な教育を保障することは不可能です。

【高校部会で示された高校生像】

選抜性の強い大学へ進学する生徒

- ・学習内容の受験対策への偏り
- ・優れた才能を伸ばす教育を受ける機会の不足
- ・グローバル化に対応した人材育成の観点の不足等

選抜性の強くない大学へ進学したり専門学校へ進学したりする生徒

- ・大学入試の選抜機能が低下したこと等に伴う学習時間の不足
- ・将来の職業生活等を念頭に置いた教育を受ける機会の不足等

就職する生徒

- ・社会や産業構造の変化に対応した教育を受ける機会の不足
- ・職業に関する技術・技能と教科・科目の関連性が曖昧等

養父市長が学区拡大反対の「市長声明」、各中学が訴え

養父市長は、県教委が但馬地域の連携校方式で連携校外の受け入れ割合を最大25%に拡大する提案を行ったことに対し市長声明を出し反対を表明しました。

養父市長は声明において「これまで再三にわたって、但馬全市町の首長と議会、そして多くの市民が要望していた『現行の連携方式の堅持』を真っ向から否定するもので、極めて遺憾である」との見解を明らかにしています。そして、学区拡大にともない連携校方式が廃止されれば「今まで地元の高校に進学できていた多くの子どもたちが、その願いを叶えられなくなり、決して許されるものではない」と訴えています。

大屋中学校PTAは、「大屋地域の場合、通学可能な公立普通科は八鹿高校しかありません。仮に村岡高校に進学するとなると、朝、大屋発6時20分の始発バスに乗り、八鹿駅で村岡行き7時25分発に乗り換えて片道2時間を要することになります。とても大変で選択できません。...子どもの夢の実現のために、大屋地域は、学区及び選抜制度の変更に強く反対します。」ときわめて具体的に問題点を指摘しています。また、養父中学PTAは「但馬の学区が一つになったとしても、普通科のある高校は7校しかなく、しかも広い但馬に点在しているため、交通の便や時間、経費の面から見て通学困難で、実質複数志願できない生徒が大多数です。希望する地元の高校に行けず、やむを得ず遠くの高校に進学せざるを得なくなる生徒が出てきます。」と訴えています。

但馬地域では地域の子どもの教育と地元の高校を守るため、県教委の基本方針決定後も再度全市町議会で学区拡大反対の意見書を採択しています。これほど地域に頼りにされ、地域に支えられ教育活動を進めている高校を学区拡大しなせ地域から切り離す必要があるのでしょうか。

株立高校と地域に根ざした高校 ... どちらに未来を託すか

学区拡大は、保護者や県民の要求から出てきたものではありません。高校の特色化の推進のために強引に進められている政策です。しかし、学区拡大は、人口減少地域では高校の統廃合と直結し地域社会の存続にもかかわる重大な問題を引き起こそうとしています。また、様々な困難を抱えた子どもたちに経済的、精神的、肉体的にさらなる犠牲を強いようとしています。高校の未来を託せるのは株立高校などではなく地域に根ざした高校です。学区拡大ストップは私たちにとって、そして県民にとって緊急かつ重要な課題です。

k o k y o s o t s u s h i n

高教組通信 No.62012年11月9日
兵庫高教組書記局URL : <http://www.hyogo-kokyoso.com> E-mail : honbu@hyogo-kokyoso.com**本当に学区拡大してよいか(4)****株立高校か 地域に根ざした高校か
株立 = 株式会社立**

中教審の高等学校部会では将来の高校像について活発な議論が行われていることを前回紹介しました。文科省や県教委が進める特色化は以下に見るように最終的には高校の民営化に行き着くこととなります。私たちは民営化などではなく地域に根ざした高校こそ高校教育の発展の基本方向であると考えています。

中教審部会で暴露された株立高校の実態

中教審 第8回部会で金子委員が次のように株式会社立の通信制高校の実態を暴露しました。

金子委員：私、構造改革特区の教育の評価委員会の委員をやらされていて、見ているんですが、株式会社立の高校が今ありまして、これは実態を見るとかなり問題がというか、ひどい場合があった、例えば教員16人で生徒が2,000人いるとか、「これ、どうやって面倒を見ているんですか」と聞いたら、「職員がいっぱいいますから」と、「職員が40人くらいいますから」とか言うんですが、要するに、職員が指導しているということでしょうが、これはやっぱり高校教育の概念から離れているんですね。... 今申し上げたような状況を放置しておいて、これで高校ですと言えるかどうかというのは、これは非常に制度上に大きな遺漏があるのではないかと思うんです。

部会では株立高校の問題は何度も取り上げられ問題点が指摘されます。「特区」での「実験」が終了すれば全国的に広がってくると思われま。いずれは、普通科高校も含め、様々な形態をとりながらも民営化が推進されていくことは間違いありません。学区拡大とセットで進められている高校特色化の危険な狙いを「株立」に見ることができます。

文科省・県教委が描く貧困な高校生像

今回文科省から(県教委も同様ですが)きわめて率直に彼らが描く「高校生像」が示されています。進路別に描いてはいますが高校生を「人材」としか見ていないことがよくわかります。人間的な成長や人格の完成などの視点から教育内容が考えられていないことは一目瞭然です。この貧困な高校生像に基づき教育政策を立案する限り高校生に必要な教育を保障することは不可能です。

【高校部会で示された高校生像】

選抜性の強い大学へ進学する生徒

- ・学習内容の受験対策への偏り
- ・優れた才能を伸ばす教育を受ける機会の不足
- ・グローバル化に対応した人材育成の観点の不足等

選抜性の強くない大学へ進学したり専門学校へ進学したりする生徒

- ・大学入試の選抜機能が低下したこと等に伴う学習時間の不足
- ・将来の職業生活等を念頭に置いた教育を受ける機会の不足等

就職する生徒

- ・社会や産業構造の変化に対応した教育を受ける機会の不足
- ・職業に関する技術・技能と教科・科目の関連性が曖昧等

養父市長が学区拡大反対の「市長声明」、各中学が訴え

養父市長は、県教委が但馬地域の連携校方式で連携校外の受け入れ割合を最大25%に拡大する提案を行ったことに対し市長声明を出し反対を表明しました。

養父市長は声明において「これまで再三にわたって、但馬全市町の首長と議会、そして多くの市民が要望していた『現行の連携方式の堅持』を真っ向から否定するもので、極めて遺憾である」との見解を明らかにしています。そして、学区拡大にともない連携校方式が廃止されれば「今まで地元の高校に進学できていた多くの子どもたちが、その願いを叶えられなくなり、決して許されるものではない」と訴えています。

大屋中学校PTAは、「大屋地域の場合、通学可能な公立普通科は八鹿高校しかありません。仮に村岡高校に進学するとなると、朝、大屋発6時20分の始発バスに乗り、八鹿駅で村岡行き7時25分発に乗り換えて片道2時間を要することになります。とても大変で選択できません。...子どもの夢の実現のために、大屋地域は、学区及び選抜制度の変更に強く反対します。」ときわめて具体的に問題点を指摘しています。また、養父中学PTAは「但馬の学区が一つになったとしても、普通科のある高校は7校しかなく、しかも広い但馬に点在しているため、交通の便や時間、経費の面から見て通学困難で、実質複数志願できない生徒が大多数です。希望する地元の高校に行けず、やむを得ず遠くの高校に進学せざるを得なくなる生徒が出てきます。」と訴えています。

但馬地域では地域の子どもの教育と地元の高校を守るため、県教委の基本方針決定後も再度全市町議会で学区拡大反対の意見書を採択しています。これほど地域に頼りにされ、地域に支えられ教育活動を進めている高校を学区拡大しなせ地域から切り離す必要があるのでしょうか。

株立高校と地域に根ざした高校 ... どちらに未来を託すか

学区拡大は、保護者や県民の要求から出てきたものではありません。高校の特色化の推進のために強引に進められている政策です。しかし、学区拡大は、人口減少地域では高校の統廃合と直結し地域社会の存続にもかかわる重大な問題を引き起こそうとしています。また、様々な困難を抱えた子どもたちに経済的、精神的、肉体的にさらなる犠牲を強いようとしています。高校の未来を託せるのは株立高校などではなく地域に根ざした高校です。学区拡大ストップは私たちにとって、そして県民にとって緊急かつ重要な課題です。

k o k y o s o t s u s h i n

高教組通信 No.62012年11月9日
兵庫高教組書記局URL : <http://www.hyogo-kokyoso.com> E-mail : honbu@hyogo-kokyoso.com**本当に学区拡大してよいか(4)****株立高校か 地域に根ざした高校か
株立 = 株式会社立**

中教審の高等学校部会では将来の高校像について活発な議論が行われていることを前回紹介しました。文科省や県教委が進める特色化は以下に見るように最終的には高校の民営化に行き着くこととなります。私たちは民営化などではなく地域に根ざした高校こそ高校教育の発展の基本方向であると考えています。

中教審部会で暴露された株立高校の実態

中教審 第8回部会で金子委員が次のように株式会社立の通信制高校の実態を暴露しました。

金子委員：私、構造改革特区の教育の評価委員会の委員をやらされていて、見ているんですが、株式会社立の高校が今ありまして、これは実態を見るとかなり問題がというか、ひどい場合があった、例えば教員16人で生徒が2,000人いるとか、「これ、どうやって面倒を見ているんですか」と聞いたら、「職員がいっぱいいますから」と、「職員が40人くらいいますから」とか言うんですが、要するに、職員が指導しているということでしょうが、これはやっぱり高校教育の概念から離れているんですね。... 今申し上げたような状況を放置しておいて、これで高校ですと言えるかどうかというのは、これは非常に制度上に大きな遺漏があるのではないかと思うんです。

部会では株立高校の問題は何度も取り上げられ問題点が指摘されます。「特区」での「実験」が終了すれば全国的に広がって行くと思われま。いずれは、普通科高校も含め、様々な形態をとりながらも民営化が推進されていくことは間違いありません。学区拡大とセットで進められている高校特色化の危険な狙いを「株立」に見ることができます。

文科省・県教委が描く貧困な高校生像

今回文科省から(県教委も同様ですが)きわめて率直に彼らが描く「高校生像」が示されています。進路別に描いてはいますが高校生を「人材」としか見ていないことがよくわかります。人間的な成長や人格の完成などの視点から教育内容が考えられていないことは一目瞭然です。この貧困な高校生像に基づき教育政策を立案する限り高校生に必要な教育を保障することは不可能です。

【高校部会で示された高校生像】

選抜性の強い大学へ進学する生徒

- ・学習内容の受験対策への偏り
- ・優れた才能を伸ばす教育を受ける機会の不足
- ・グローバル化に対応した人材育成の観点の不足等

選抜性の強くない大学へ進学したり専門学校へ進学したりする生徒

- ・大学入試の選抜機能が低下したこと等に伴う学習時間の不足
- ・将来の職業生活等を念頭に置いた教育を受ける機会の不足等

就職する生徒

- ・社会や産業構造の変化に対応した教育を受ける機会の不足
- ・職業に関する技術・技能と教科・科目の関連性が曖昧等

養父市長が学区拡大反対の「市長声明」、各中学が訴え

養父市長は、県教委が但馬地域の連携校方式で連携校外の受け入れ割合を最大25%に拡大する提案を行ったことに対し市長声明を出し反対を表明しました。

養父市長は声明において「これまで再三にわたって、但馬全市町の首長と議会、そして多くの市民が要望していた『現行の連携方式の堅持』を真っ向から否定するもので、極めて遺憾である」との見解を明らかにしています。そして、学区拡大にともない連携校方式が廃止されれば「今まで地元の高校に進学できていた多くの子どもたちが、その願いを叶えられなくなり、決して許されるものではない」と訴えています。

大屋中学校PTAは、「大屋地域の場合、通学可能な公立普通科は八鹿高校しかありません。仮に村岡高校に進学するとなると、朝、大屋発6時20分の始発バスに乗り、八鹿駅で村岡行き7時25分発に乗り換えて片道2時間を要することになります。とても大変で選択できません。...子どもの夢の実現のために、大屋地域は、学区及び選抜制度の変更に強く反対します。」ときわめて具体的に問題点を指摘しています。また、養父中学PTAは「但馬の学区が一つになったとしても、普通科のある高校は7校しかなく、しかも広い但馬に点在しているため、交通の便や時間、経費の面から見て通学困難で、実質複数志願できない生徒が大多数です。希望する地元の高校に行けず、やむを得ず遠くの高校に進学せざるを得なくなる生徒が出てきます。」と訴えています。

但馬地域では地域の子どもの教育と地元の高校を守るため、県教委の基本方針決定後も再度全市町議会で学区拡大反対の意見書を採択しています。これほど地域に頼りにされ、地域に支えられ教育活動を進めている高校を学区拡大しなせ地域から切り離す必要があるのでしょうか。

株立高校と地域に根ざした高校 ... どちらに未来を託すか

学区拡大は、保護者や県民の要求から出てきたものではありません。高校の特色化の推進のために強引に進められている政策です。しかし、学区拡大は、人口減少地域では高校の統廃合と直結し地域社会の存続にもかかわる重大な問題を引き起こそうとしています。また、様々な困難を抱えた子どもたちに経済的、精神的、肉体的にさらなる犠牲を強いようとしています。高校の未来を託せるのは株立高校などではなく地域に根ざした高校です。学区拡大ストップは私たちにとって、そして県民にとって緊急かつ重要な課題です。

k o k y o s o t s u s h i n

高教組通信 No.62012年11月9日
兵庫高教組書記局URL : <http://www.hyogo-kokyoso.com> E-mail : honbu@hyogo-kokyoso.com

本当に学区拡大してよいか(4) 株立高校か 地域に根ざした高校か 株立 = 株式会社立

中教審の高等学校部会では将来の高校像について活発な議論が行われていることを前回紹介しました。文科省や県教委が進める特色化は以下に見るように最終的には高校の民営化に行き着くこととなります。私たちは民営化などではなく地域に根ざした高校こそ高校教育の発展の基本方向であると考えています。

中教審部会で暴露された株立高校の実態

中教審 第8回部会で金子委員が次のように株式会社立の通信制高校の実態を暴露しました。

金子委員：私、構造改革特区の教育の評価委員会の委員をやらされていて、見ているんですが、株式会社立の高校が今ありまして、これは実態を見るとかなり問題がというか、ひどい場合があった、例えば教員16人で生徒が2,000人いるとか、「これ、どうやって面倒を見ているんですか」と聞いたら、「職員がいっぱいいますから」と、「職員が40人くらいいますから」とか言うんですが、要するに、職員が指導しているということでしょうが、これはやっぱり高校教育の概念から離れているんですね。... 今申し上げたような状況を放置しておいて、これで高校ですと言えるかどうかというのは、これは非常に制度上に大きな遺漏があるのではないかと思うんです。

部会では株立高校の問題は何度か取り上げられ問題点が指摘されます。「特区」での「実験」が終了すれば全国的に広がって行くと思われれます。いずれは、普通科高校も含め、様々な形態をとりながらも民営化が推進されていくことは間違いありません。学区拡大とセットで進められている高校特色化の危険な狙いを「株立」に見ることができます。

文科省・県教委が描く貧困な高校生像

今回文科省から(県教委も同様ですが)きわめて率直に彼らが描く「高校生像」が示されています。進路別に描いてはいますが高校生を「人材」としか見ていないことがよくわかります。人間的な成長や人格の完成などの視点から教育内容が考えられていないことは一目瞭然です。この貧困な高校生像に基づき教育政策を立案する限り高校生に必要な教育を保障することは不可能です。

【高校部会で示された高校生像】

選抜性の強い大学へ進学する生徒

- ・学習内容の受験対策への偏り
- ・優れた才能を伸ばす教育を受ける機会の不足
- ・グローバル化に対応した人材育成の観点の不足等

選抜性の強くない大学へ進学したり専門学校へ進学したりする生徒

- ・大学入試の選抜機能が低下したこと等に伴う学習時間の不足
- ・将来の職業生活等を念頭に置いた教育を受ける機会の不足等

就職する生徒

- ・社会や産業構造の変化に対応した教育を受ける機会の不足
- ・職業に関する技術・技能と教科・科目の関連性が曖昧等

養父市長が学区拡大反対の「市長声明」、各中学が訴え

養父市長は、県教委が但馬地域の連携校方式で連携校外の受け入れ割合を最大25%に拡大する提案を行ったことに対し市長声明を出し反対を表明しました。

養父市長は声明において「これまで再三にわたって、但馬全市町の首長と議会、そして多くの市民が要望していた『現行の連携方式の堅持』を真っ向から否定するもので、極めて遺憾である」との見解を明らかにしています。そして、学区拡大にともない連携校方式が廃止されれば「今まで地元の高校に進学できていた多くの子どもたちが、その願いを叶えられなくなり、決して許されるものではない」と訴えています。

大屋中学校PTAは、「大屋地域の場合、通学可能な公立普通科は八鹿高校しかありません。仮に村岡高校に進学するとなると、朝、大屋発6時20分の始発バスに乗り、八鹿駅で村岡行き7時25分発に乗り換えて片道2時間を要することになります。とても大変で選択できません。...子どもの夢の実現のために、大屋地域は、学区及び選抜制度の変更に強く反対します。」ときわめて具体的に問題点を指摘しています。また、養父中学PTAは「但馬の学区が一つになったとしても、普通科のある高校は7校しかなく、しかも広い但馬に点在しているため、交通の便や時間、経費の面から見て通学困難で、実質複数志願できない生徒が大多数です。希望する地元の高校に行けず、やむを得ず遠くの高校に進学せざるを得なくなる生徒が出てきます。」と訴えています。

但馬地域では地域の子どものための教育と地元の高校を守るため、県教委の基本方針決定後も再度全市町議会で学区拡大反対の意見書を採択しています。これほど地域に頼りにされ、地域に支えられ教育活動を進めている高校を学区拡大しなせ地域から切り離す必要があるのでしょうか。

株立高校と地域に根ざした高校 ... どちらに未来を託すか

学区拡大は、保護者や県民の要求から出てきたものではありません。高校の特色化の推進のために強引に進められている政策です。しかし、学区拡大は、人口減少地域では高校の統廃合と直結し地域社会の存続にもかかわる重大な問題を引き起こそうとしています。また、様々な困難を抱えた子どもたちに経済的、精神的、肉体的にさらなる犠牲を強いようとしています。高校の未来を託せるのは株立高校などではなく地域に根ざした高校です。学区拡大ストップは私たちにとって、そして県民にとって緊急かつ重要な課題です。

k o k y o s o t s u s h i n

高教組通信 No.62012年11月9日
兵庫高教組書記局URL : <http://www.hyogo-kokyoso.com> E-mail : honbu@hyogo-kokyoso.com

本当に学区拡大してよいか(4) 株立高校か 地域に根ざした高校か 株立 = 株式会社立

中教審の高等学校部会では将来の高校像について活発な議論が行われていることを前回紹介しました。文科省や県教委が進める特色化は以下に見るように最終的には高校の民営化に行き着くこととなります。私たちは民営化などではなく地域に根ざした高校こそ高校教育の発展の基本方向であると考えています。

中教審部会で暴露された株立高校の実態

中教審 第8回部会で金子委員が次のように株式会社立の通信制高校の実態を暴露しました。

金子委員：私、構造改革特区の教育の評価委員会の委員をやらされていて、見ているんですが、株式会社立の高校が今ありまして、これは実態を見るとかなり問題がというか、ひどい場合があって、例えば教員16人で生徒が2,000人いるとか、「これ、どうやって面倒を見ているんですか」と聞いたら、「職員がいっぱいいますから」と、「職員が40人くらいいますから」とか言うんですが、要するに、職員が指導しているということでしょうが、これはやっぱり高校教育の概念から離れているんですね。... 今申し上げたような状況を放置しておいて、これで高校ですと言えるかどうかというのは、これは非常に制度上に大きな遺漏があるのではないかと思うんです。

部会では株立高校の問題は何度も取り上げられ問題点が指摘されます。「特区」での「実験」が終了すれば全国的に広がって行くと思われま。いずれは、普通科高校も含め、様々な形態をとりながらも民営化が推進されていくことは間違いありません。学区拡大とセットで進められている高校特色化の危険な狙いを「株立」に見ることができます。

文科省・県教委が描く貧困な高校生像

今回文科省から(県教委も同様ですが)きわめて率直に彼らが描く「高校生像」が示されています。進路別に描いてはいますが高校生を「人材」としか見ていないことがよくわかります。人間的な成長や人格の完成などの視点から教育内容が考えられていないことは一目瞭然です。この貧困な高校生像に基づき教育政策を立案する限り高校生に必要な教育を保障することは不可能です。

【高校部会で示された高校生像】

選抜性の強い大学へ進学する生徒

- ・学習内容の受験対策への偏り
- ・優れた才能を伸ばす教育を受ける機会の不足
- ・グローバル化に対応した人材育成の観点の不足等

選抜性の強くない大学へ進学したり専門学校へ進学したりする生徒

- ・大学入試の選抜機能が低下したこと等に伴う学習時間の不足
- ・将来の職業生活等を念頭に置いた教育を受ける機会の不足等

就職する生徒

- ・社会や産業構造の変化に対応した教育を受ける機会の不足
- ・職業に関する技術・技能と教科・科目の関連性が曖昧等

養父市長が学区拡大反対の「市長声明」、各中学が訴え

養父市長は、県教委が但馬地域の連携校方式で連携校外の受け入れ割合を最大25%に拡大する提案を行ったことに対し市長声明を出し反対を表明しました。

養父市長は声明において「これまで再三にわたって、但馬全市町の首長と議会、そして多くの市民が要望していた『現行の連携方式の堅持』を真っ向から否定するもので、極めて遺憾である」との見解を明らかにしています。そして、学区拡大にともない連携校方式が廃止されれば「今まで地元の高校に進学できていた多くの子どもたちが、その願いを叶えられなくなり、決して許されるものではない」と訴えています。

大屋中学校PTAは、「大屋地域の場合、通学可能な公立普通科は八鹿高校しかありません。仮に村岡高校に進学するとなると、朝、大屋発6時20分の始発バスに乗り、八鹿駅で村岡行き7時25分発に乗り換えて片道2時間を要することになります。とても大変で選択できません。...子どもの夢の実現のために、大屋地域は、学区及び選抜制度の変更に強く反対します。」ときわめて具体的に問題点を指摘しています。また、養父中学PTAは「但馬の学区が一つになったとしても、普通科のある高校は7校しかなく、しかも広い但馬に点在しているため、交通の便や時間、経費の面から見て通学困難で、実質複数志願できない生徒が大多数です。希望する地元の高校に行けず、やむを得ず遠くの高校に進学せざるを得なくなる生徒が出てきます。」と訴えています。

但馬地域では地域の子どもの教育と地元の高校を守るため、県教委の基本方針決定後も再度全市町議会で学区拡大反対の意見書を採択しています。これほど地域に頼りにされ、地域に支えられ教育活動を進めている高校を学区拡大しなせ地域から切り離す必要があるのでしょうか。

株立高校と地域に根ざした高校 ... どちらに未来を託すか

学区拡大は、保護者や県民の要求から出てきたものではありません。高校の特色化の推進のために強引に進められている政策です。しかし、学区拡大は、人口減少地域では高校の統廃合と直結し地域社会の存続にもかかわる重大な問題を引き起こそうとしています。また、様々な困難を抱えた子どもたちに経済的、精神的、肉体的にさらなる犠牲を強いようとしています。高校の未来を託せるのは株立高校などではなく地域に根ざした高校です。学区拡大ストップは私たちにとって、そして県民にとって緊急かつ重要な課題です。